

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	コミュニケーション実践	
科目基礎情報							
科目番号		0053		科目区分		一般 / 必修	
授業形態		講義		単位の種別と単位数		履修単位: 1	
開設学科		電子工学分野		対象学年		3	
開設期		後期		週時間数		2	
教科書/教材		必要に応じて					
担当教員		小田島 本有					
到達目標							
コミュニケーション能力の基礎力を養い、「読む」「書く」「話す」「聴く」、それぞれの能力を総合的に生かすことができる。また、教材を通じて人類の文化にも触れ、幅広い視野に立って物事を考えることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		敬語表現を十分に生かし総合的に活用することができる。		敬語表現を一定程度生かして活用することができる。		敬語表現を生かして活用することができない。	
評価項目2		「話す」「聴く」能力を十分に生かして総合的に意思を疎通することができる。		「話す」「聴く」能力を一定程度生かして意思を疎通することができる。		「話す」「聴く」能力を生かして意思を疎通することができない。	
評価項目3		人類の文化に触れ、幅広い視野に立って物事を考え、十分に表現することができる。		人類の文化に触れ、それなりの視野に立って物事を考え、表現することができる。		人類の文化に触れ、幅広い視野に立って物事を考え、表現することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 F							
教育方法等							
概要		社会人に必須なものとしてコミュニケーション能力は欠かすことはできない。この授業では敬語の習得、手紙の書き方、さらに口頭発表を通じてコミュニケーション能力の育成を目指す。口頭発表は世の中の動きを視野に入れたものになるので、とりわけ現代社会との関連が期待される。					
授業の進め方・方法		前半は主に敬語の基礎的な知識の習得に努め、使いこなせるようにする。この他に社会的なマナーや手紙の書き方についても学ぶ。後半は学生一人一人がテーマを決めて口頭発表を行う。定期試験は後期中間のみ実施し、それを評定の60%とする。口頭発表は30%、口頭発表後の小論文を10%とし、その総合評価で60点以上を合格とする。再試験は60点以上を合格とする。					
注意点		社会に出て働く際には必要なことを学ぶので、授業には大人としての高い意識が求められる。年度当初にこちらから指摘する約束事はしっかり守ることを心がけて欲しい。また、口頭発表では社会的な事柄に対する関心が求められるので、新聞やテレビなどを通じニュースなどには日頃から目を向けておく必要がある。					
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガンダンス、敬語の使い方①		授業の予定を把握し、敬語の基礎を理解できる。		
		2週	敬語の使い方②		敬語を理解し、使いこなすことができる。		
		3週	敬語の使い方③		〃		
		4週	敬語の使い方④		〃		
		5週	手紙の書き方		手紙の書き方を理解し、書くことができる。		
		6週	口頭発表の諸注意		口頭発表の際に注意すべきことを理解することができる。		
		7週	小論文の書き方		小論文を書く際に注意すべきことを理解することができる。		
		8週	後期中間試験を実施する				
	4thQ	9週	答案返却と解説、口頭発表①		自分が間違ったところを確認し、正解を理解することができる。的確な形で口頭発表ができると同時に、他者の発表を聴いてしっかり把握し、質問できる。		
		10週	口頭発表②		的確な形で口頭発表ができると同時に、他者の発表を聴いてしっかり把握し、質問できる。		
		11週	口頭発表③		〃		
		12週	口頭発表④		〃		
		13週	口頭発表⑤		〃		
		14週	口頭発表⑥		〃		
		15週	予備日（口頭発表）		〃		
		16週	後期末試験を実施しない				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3		後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べるができる。	3		後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14

			文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	3	
			常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	後7
			類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	後1,後2,後3,後4,後7
			社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	後5
			報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	30	0	0	10	0	100
基礎的能力	60	30	0	0	10	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0